

学校教育目標	○よく考える子(知) ○心ゆたかな子(情) ○元気な子(意)(体)	【目指す学校像】	○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校 ○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校
		【目指す児童・生徒像】	○自らの人生(運命)を自らの力で切り拓き、これからの社会の創造を担える児童～グローバルに考え、ローカルに実践する子～
		【目指す教師像】	○「チーム拝二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師 ○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	(知) 自ら学び考え判断し、協働して問題を解決することができる児童の育成	「拝二小授業力スタンダード20ver.4」を基に、児童が自身の学びの成果を実感できるように指導する。	日々の授業を充実させ、学力調査(プレ・ポストテスト)のAB層を引き上げ、CD層の引き下げを図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	4	4 3%のA層の増加と5%のD層の減少	4	全国学力学習状況調査は、知識のみで解くことができない問題が多い中で、記述式の問題に本校児童が特に正答率が高いことは、今年度、授業改善を各学年で取り組んできた成果であると考えられる。次年度もその取組を継続するとともに、更なる授業改善を進める。		3	
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 2%のA層の増加と4%のD層の減少					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 1%のA層の増加と3%のD層の減少					
1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	1 0%以下のA層の増加とD層の減少										
				4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	4	4 「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上	4	取組指標において教職員の授業改善意識の向上が見られた。(7.1%増加) 授業改善プランに沿って学年で共同して教材研究に取り組んだ成果が表れた。	4		
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上					
				1 教職員が50%未満の意識をもって行った。		1 「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満					
				4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	4	4 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上	4	毎時間の授業で学習感想を記述させるようになって一年間が経過した成果であると考えられる。一方、児童の評価(成果指標)で+3.2%の増加にとどまった。ことは、学習の振り返り方の指導を改善していく必要がある。		3	
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上					
				1 教職員が50%未満の意識をもって行った。		1 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満					
豊かな心	(情) 自らのよさを見つめ、他者を尊重し、共によりよく生きようとする児童の育成	すべての児童が安心して登校できる学校にする。	児童・保護者の声や思いを十分にくみとれるように教員の感受性を高める。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	4	4 いじめ・暴力の未解決0件	4	法令上のいじめ件数は依然、あるものの、社会通念上のいじめにおいて未解決なものはない。一方、不登校児童が複数いるため改善が必要である。		3	いじめ調査をした際、気になる児童に対して即座に聞き取り調査を実施して、早期発見、早期解決に取り組んできた成果であると考えられる。今後も、アンケート調査のみに頼ることなく、児童と休み時間に遊ぶなどの機会を増やし、問題の早期解決を心掛けていく。
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 いじめ・暴力の未解決1件					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 いじめ・暴力の未解決2件					
1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	1 いじめ・暴力の未解決3件										
				4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	4	4 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上	4	取組指標において大幅に増加した。(21.1%の増加)また、成果指標においても高い結果となった。		3	学級力スタンダードver.2を引き続き継続し、児童が自己分析を的確に行い、自らの生活をよりよくしていくようとする機会を維持していく。また、その場のみで話し合っ終わることなく、日々、自分たちが話し合っ決めて決めたことを確認しながら生活していく。
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上					
				1 教職員が50%未満の意識をもって行った。		1 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満					
				4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	4	4 学校のきまりを守っていると感じる児童70%以上	4	「学校の決まりを守っている」と回答した児童が増加した。(5.5%増加)		4	2学期初め、廊下を走る児童が多く、教師が指導することがあった。教師の指導と児童会からも全校に呼び掛けたことで減少したが、引き続き指導していく。児童会が、学校のきまりだけでなく、言葉遣いをよくしていくこと、児童自ら行動している様子が見られるため、今後も支援していく。
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 学校のきまりを守っていると感じる児童60%以上					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 学校のきまりを守っていると感じる児童50%以上					
				1 教職員が50%未満の意識をもって行った。		1 学校のきまりを守っていると感じる児童50%未満					
健やかな体	(体) 自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる児童の育成	拝二小版スタンダード体育編を共通実践し、体育科の授業充実を図る。	拝二小版授業力スタンダード体育編ver.2を共通実践し、体育科の授業充実を図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	4	4 運動が好きになったと実感できる児童70%以上	4	「運動が好き」と回答する児童が増加した。(9.3%増加)		4	児童の記録が掲示してあり、意欲向上の観点からもよかった。
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 運動が好きになったと実感できる児童60%以上					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 運動が好きになったと実感できる児童50%以上					
1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	1 運動が好きになったと実感できる児童50%未満										
				4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	3	4 Tスコアを都平均以上にする。	4	学校全体では、依然高い記録を維持しているが、「反復横跳び」に記録が低下傾向にある。(4年生・6年生女子)		4	コーディネーショントレーニングを通じて改善を図るとともに、年度初めに、全教職員に「拝二小体育スタンダード」の周知・徹底する。そのことにより、児童の体力をより高い水準に引き上げていく。また、朝のラジオ体操を継続と休み時間を活用して、敏捷性を高める場の設置を体育部中心に行う。
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 Tスコアを都平均にする。					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 Tスコアを都平均より-1%にとどめる。					
				1 教職員が50%未満の意識をもって行った。		1 Tスコアを都平均より-2%にとどめる。					
				4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	4	4 生活改善を実感する児童70%以上	4	大きな数値の変化はないが教職員の意識が低いことに課題がある。		3	昭島市の保健部と体育部を中心にグッドモーニング60分を通して、児童の生活習慣改善に取り組んできた。しかし、十分な成果がでていない。よって、一人一人の教員により高い意識を持ってもらうために、研修をし、児童の生活改善の意義や効果、指導の在り方を伝達していく。
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 生活改善を実感する児童60%以上					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 生活改善を実感する児童50%以上					
				1 教職員が50%未満の意識をもって行った。		1 生活改善を実感する児童50%未満					
輝く未来	(意) 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げることができる児童の育成	昭島市民科や各教科等の充実を図り、地域を担う市民としての愛着を育てる。	地域に根差した昭島市民科や各教科等の授業を展開することで地域に愛着をもつ児童を育成する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	4	4 地域に愛着をもつ児童70%以上	4	全国学力学習状況調査及び、東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査の児童の意識調査の結果通り、本校児童の地域に対する愛着度は高い。(8%増加、また、全国・東京都と比較しても大幅に高い)		3	本校は、地域社会を担っていく児童の育成を図るために、年回りの市民科週間(総合的な学習の時間に重点的に取り組む)を実施してきた。今後も、地域に愛着をもつ児童が多い要因を考えると、今後もこの取組を継続するとともに、地域の方々から昭島市民科の取組を見ていただく機会を維持していく。
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 地域に愛着をもつ児童60%以上					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 地域に愛着をもつ児童50%以上					
1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	1 地域に愛着をもつ児童50%未満										
				4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	4	4 社会貢献しようとする児童70%以上	4	取組指標において、教職員の意識が高い。(8.3%の増加) また東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査においても同様に全国、東京都の平均を大きく上回っている。		3	各学期、年間3回設定した市民科週間の実施によって、児童の「地域をよりよくしていく」とする意識が芽生えつつある。より一層社会貢献しようとする児童を育成するために、昭島市民科の年間指導期計画の修正を行う。
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 社会貢献しようとする児童60%以上					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 社会貢献しようとする児童50%以上					
				1 教職員が50%未満の意識をもって行った。		1 社会貢献しようとする児童50%未満					
				4 教職員が70%以上の意識をもって行った。	4	4 将来への夢や希望がもたらしたと実感できる児童80%以上	3	取組指標において教職員の意識が低下した。(3.2%低下)また、成果指標においても、児童の意識が低下した。(5.9%の減少)		4	「将来の夢や希望をもてた」とする児童の減少に対して、教職員は重く受け止める必要がある。自殺予防教育の徹底やキャリア教育の充実、昭島市民科を通して、自らがよりよい社会を創っていく大切な存在であることを意識付けていく。
				3 教職員が60%以上の意識をもって行った。		3 将来への夢や希望がもたらしたと実感できる児童60%以上					
				2 教職員が50%以上の意識をもって行った。		2 将来への夢や希望がもたらしたと実感できる児童50%以上					
				1 教職員が50%未満の意識をもって行った。		1 将来への夢や希望がもたらしたと実感できる児童50%未満					